

# つくば・市民ネットワーク議会通信 第16号

発行:つくば・市民ネットワーク 発行責任者:阿部登代子 つくば市千現1-18-5-101 Tel & Fax : 029-859-0264  
E-mail: tsukubahotnet@ybb.ne.jp ホームページ: http://www.geocities.jp/tsukubahotnet/

## 市民ネットを立ち上げて

### 私たちが成しえたことと今後への思い

#### 情報発信で市民に還元

私たちが市議会に直接参加するようになって4年がたちました。

この4年間の活動の、それまでの市民活動に比して最も大きく異なった点は、多くの情報がいち早く詳細に得られるようになったことです。

私たちは情報公開を活動の基本に据えています。情報公開こそが市民と行政、生産者と消費者など各々お互いの信頼関係を築く第一歩であると考えます。

現在の日本社会では情報公開が徹底することは残念ながらありません。特に、行政の市民に対する情報発信は十分なものではありません。

私たちは税金を払っている市民として権利も義務も保持しています。税金を払う義務とともに税金をどのように使うのかを知る権利も発揮すべきではないでしょうか。

また、議会で決定される条例などは、本来市民の暮らしを豊かにするために必要なルールとなるべきもの

なので、その決定に至る過程・背景など随時知らせたいと思います。

建物の高さ制限に関する都市計画の変更は、早い段階から情報を得ることができ、多くの市民が共有することで一定の成果が達成されました。情報公開が功を奏した良い例といえます。

私たち市民ネットワーク一市民として得ていたものとは比べものになりません。今後も、通信配布、議員と話そう会、市民活動グループや個別の話し合いなどを通して、市民の皆さんへ還元していきま

す。

#### 投票で意思を反映しよう

今回の選挙では、次の4年間の市政ばかりでなく将来に渡るつくばのまちづくりについて、多くの市民の皆さんの意思を反映していかねばなりません。

TX開通、新庁舎着工、再度の公務員宿舍跡地処分などによって次々とつくばの街の様子が変わってきています。当然このようなハード部分は、市民の暮らしが豊かになるためのもの。税金を有効に使い、十分機能させたいものです。そのためにも、まずは私たち市民が市政に関心を示すことが第一と考えます。

さあ、投票へ行きましょう。  
(代表 阿部登代子)

#### 市民ネットワーク3つのルール

生活者の視点を保ちつづけたい。多くの市民とともにまちづくりをつづけたい。だから、3つのルールで活動しています。

- 議員は2期で交代します  
市民ネットワークの議員は原則2期8年で交代し、職業化・特権化しません。ローテーションで参加する人を広げます。
- 議員報酬を市民の活動費に使います  
議員報酬は必要経費を除き、調査や学習会、情報発信など市民の活動費に使います。内訳はすべて公開します。
- 選挙はカンパとボランティアで行います  
不必要にお金をかけないよう努めます。

## せとゆみこ

つくば市議会議員

あなたと行政を結ぶ役目を担いたい——そう思ってつくば市議会議員2期目を目指します。あなたと一緒に暮らしやすいまち、人に優しいまちづくりを進めていきたいと思っています。主婦として母としての視点で安全な食を求め、こどもの豊かな未来をめざします。つくば市に足りないものをあなたと一緒に求めていきたい。暮らしの中から誰でもが住みやすいと思えるまちづくりをすすめていきましょう。



## ながい 永井えつ子

つくば市議会議員



つくば市議会へ送り出さいただき、4年が過ぎました。この間、つくばエクスプレスの開通や沿線開発によってつくばのまちが大きく様変わりしています。

まちづくりにとって大変重要なこの時期に、再び議会に直接参加し、生活する者の立場から課題解決に取り組むことこそ私、永井えつ子のやるべきことと思っています。



# 産前産後の支援体制は？

## 一般質問項目

1. 子育て支援について
2. 公民館のあり方について
3. 公共施設の耐震性について



つくば市議会議員  
文教福祉常任委員  
せと ゆみこ  
瀬戸 裕美子

### 支えが必要な産前産後

家族に赤ちゃんを迎えるということは、これまでとはちがう生活が始まるのですから、子育ての不安、生活環境の変化、産後の母体の健康といくつもの心配を抱えることにもなります。

一般にマタニティブルーと呼ばれる産前産後の母親の情緒不安定な状態が、実はホルモンバランスが産出によって急激に崩れるために起こるといふことは、よく知られるようになりました。しかしその症状には個人差があり、几帳面な人や生活環境が不安定な人に大きく症状が現れるようです。このような時期に、家族や友人の支えがあればその後の回復を助け、より重い症状の産後うつに移行していくことを予防できます。けれど最近の核家族化や人間関係を築きにくくなっている世間の流れの中では、

## 公共施設の耐震は大丈夫？

関東では関東大震災規模の大地震が何時起きてもおかしくないと言われております。天災が人災とならぬよう、出来るだけの対策はしておかねばなりません。

いざという時の避難所は学校や体育館です。市では小中学校の耐震度調査を行ない、危険度の大きいものから建て替え、補修を始めました。しかし、小中学校や幼稚園、保育所、公民館など避難所となる公共施設全体の耐震度調査結果や、今後の補修計画は公表されていません。

調査結果と今後の対処方針を速やかに公表し、子ども達の安全確保の点からも計画を前倒しし、早く工事を進めるよう提案しました。



### 全戸訪問で母子の健康確保を！

妊産婦が孤立したり追い詰められたりするような事例も少なくないのです。

そこで産後の母子の健康を守るために、つくば市では現在、保健師や助産師による家庭訪問が行われています。

赤ちゃんの発育を観察し、出産直後のお母さんの疑問や悩みを耳を傾け、問題があればその後の対応を図ります。しかし、この訪問は希望者のみに行われていて、全戸を訪問しているわけではないです。19年度は2069件の出生数に対して607件、29・3パーセントの訪問にすぎません。

リスクの高い出産や、低体重児などの場合は、必ず訪問を計画するそうです。けれど訪問を断られることも多いそうで、せつかくの



制度なのに残念です。早い時期に事態を把握できれば対策も考えられます。適切なアドバイスを受けることで心と体の健康を取り戻し、その後の育児をゆったりと楽しみながら続けていけるのではないのでしょうか。今後、市は出産後の家庭の全戸訪問を検討していくとのことですが、現在行われている子育てアドバイザーによる相談事業や、医療機関との連携などをさらに充実させ、母子の健康を守ることに力を尽くしてほしいと望みます。安心して、子どもを産み育てることができるようまちづくりを目指します。

## 中央図書館の今後は？

文化のバロメーターとも言われる図書館。

つくば市では、分館的扱いとして4公民館の図書室を充実させながらつくば市中央図書館を運営してきました。しかし、財政の見直しのために指定管理者を平成22年4月に導入する方向が示されました。

昨年度、市民の声が反映できる図書館協議会では、「一般的には導入のメリットとして、窓口業務時間の拡大や、ソフト面で遅れている図書館での専門性の向上などが挙げられる」という民間経営者の話も紹介され、各委員が真剣に調べておられました。残念ながら、このような経過は市民にまで伝わっていません。

図書館運営の今後については、図書館協議会の場に関係行政部署と専門家が同席し、より具体的に幅広い検討を行っていきよう、市に提案します。



## 窓口センターを地域の交流拠点にしよう！

研究学園駅前に建設中の新庁舎がH22年に完成すると、市役所の各部門は新庁舎に統合されます。これにともない、各地域の古い庁舎は、耐震補強や維持管理に大きな費用がかかるため、耐震上問題がない春日、大穂庁舎以外は廃止の方向で検討が進められています。

その代わりに、公民館や保健センター等に市の窓口センター機能を加えた地域ごとの拠点を整備する方針とのこと。

この機会に、窓口センターを地域の交流拠点にしてはどうでしょうか？

青少年や子育て世代、中高年から高齢者まで色々な人たちが交流する場になれば、生活支援の情報交換や介護予防のサークルなどお手伝いしたい人と必要としている人をつなぐことなども出来るかもしれません。

各地の窓口センターを地域の交流拠点にする発想から、では窓口センターにどんな機能があつたらよいか、地域の人たちで話し合ってみよう。自治会やPTA、福祉サークルなど身近なところでぜひ話し合ってみてください。



ながい えつこ  
永井 悦子  
つくば市議会議員  
環境経済常任委員

### 一般質問項目

1. 地域防災について
2. つくばスタイル事業の事業評価について
3. 公務員宿舎跡地利用について
4. 財政状況の公開について

# 公務員宿舎跡地の活用

## 難しい環境維持

つくば市、特に研究学園地区の中で多くの部分を占める公務員宿舎の処分が進んでいます。

つくば市はこれまで宿舎跡地の処分について、国へ環境の現状維持を要望してきましたが、国は高い購入価格を示した事業者に跡地を販売し、その後建てられた建物の高さや緑地面積は、以前と比べゆとりのない状態になっています。確かに宿舎は国の所有物ではありませんが、宿舎の占有面積は広く、その処分の動向は、つくば市の今後のまちづくりに大きな影響を及ぼします。

## 勉強会・調査検討はなされるもの…

そこで、つくば市が公務員宿舎跡地利用についてどのような見解を持ち、国へどのような働きかけをして

いるのか、議会で確認しました。

つくば市は、宿舎の有効活用はこれからのまちづくりの観点から重要であるとし、現在、つくば市・茨城県・都市再生機構・国交省・財務省・筑波大が勉強会を実施する中で、各研究所のニーズや市場動向の調査を進めているとのこと。

また、必要な都市機能の整備や跡地の有効活用方策について今後も検討を続け、現在策定中のつくば市グラウンドデザインにも反映していくと説明しました。

## 市民の意見を生かしゆとりある街並み維持を

しかし、この様な市民にとつて重要な情報が全く伝わってきません。そこで、

市へ進捗状況の公表を提案

しました。今後は前述の勉強会の報告をまず市民へ知らせたいと思います。

そして公務員宿舎跡地の活用がつくば市のまちづくり如何に重要であるかを国に強く訴え、有効活用を進めるよう求めていかねばならないと考えます。今後私たちは、市に跡地利用について市民間の意見交換会開催を求め、処分後のゆとりある街並みの環境維持を強く働きかけていきます。



## 生ゴミ堆肥化施設見学 (焼却ゴミを減らすために)



8月19日に常総環境センター生ゴミ堆肥化施設(守谷市)を見学しました。ここは生ゴミを焼却せずに資源化するための実証プラントです。NPOエコクリーン常総が委託を受け、今年4月に運転を開始、現在は1500世帯(モデル地区)から週2回戸別回収、検証を行っているそうです。生ゴミは発酵が十分に進んでいて、できた堆肥はにおいもなく、また施設周辺の臭気も全然気になりません。ここに隣接する焼却施設で建て替えが必要になり、焼却ゴミを減らそうと始まった取り組みです。この取り組みで、計画中の焼却施設の処理能力を当初の約410tから258tに縮小できました。つくばでもぜひそういう方向転換を実現させていきたいと考えます。



→生ごみを裁断し、袋や異物を取り除く装置



←良質の堆肥が出来上がったところ

## 災害時の避難体制は?

9月は防災月間でした。現在、いざというときの避難情報は「市民べんり帳」や防災マップで広報されていますが、市民は十分把握できているのでしょうか。また、最近相次いで建設されているマンション住民の対策にも不安があります。そこで、人口集中地域の一次・二次避難所の確保について確認しました。

被災後すぐに避難する一次避難所は、地域内の公園・空き地の他、筑波大学・実験植物園・JAXAなどです。帰宅できなくなった住民の避難所(二次避難所)は、市の緊急対策本部が被害状況に応じて順次開設するということです。

防災は「一に自助、二に共助、三に公助」と言われます。まずどこへ逃げるかという誘導情報や緊急時の体制など、自助・共助のための情報を日常的に市民に浸透させるように強く求めました。また公助については、被災状況の把握の徹底や防災放送の充実などを市へ働きかけていきます。



# つくば・市民ネットワーク議会通信 第16号

発行:つくば・市民ネットワーク 発行責任者:阿部登代子 つくば市千現1-18-5-101 Tel & Fax : 029-859-0264  
E-mail:tsukubahotnet@ybb.ne.jp ホームページ:http://www.geocities.jp/tsukubahotnet/

## 今つくばに必要なのは… 市民が主役!のまちづくり

### 積極的な情報公開

行政と市民が知恵と力を出し合い、市民参画のまちづくりをすすめるためには市の情報公開を進め、市民が行政の実情を把握することが重要です。

- 市ホームページの改善（審議会の議事録をすべてホームページで公開など）
- 議会のインターネット中継 ●各議員の議案賛否を議会報で公表

### 安心な食

産地偽装などが続く中、特に学校給食などの安全な食材確保は大変重要です。また農地の多いつくばで自給率を高め環境保全型の農業を進めることは、環境を守ることに繋がっています。●地産地消・自給率の向上（特に給食の地産地消を促進）●自校式学校給食の導入

### 教育の充実

価値観が多様化する中、未来の社会を担い、いきいきと心豊かに暮らせる人づくりは大変重要な課題です。●先生が子どもに向き合える環境を整える ●地域の人材を活用 ●教育費の増額（司書教諭補助員・特別支援補助員などの増員、図書費の増額、校舎補修）

### 子育て支援

核家族化・少子化が進む中、安心して出産・子育てができる環境づくりは急務です。●地域コミュニティで子育てを支え合う仕組みづくり ●学童保育や保育所の待機児童を解消

### 福祉の充実と地域ネットワークづくり

子どもも、おとなも高齢者も障がい者も、全ての人々が安心して自分らしく暮らし続けられるまちにするために、地域のネットワークづくりが大切です。●市の独自施策の推進 ●福祉相談窓口の充実●子育て世代、高齢者、障がい者を地域で支えあう仕組みづくり

### 循環型社会をつくる

農村部と多くの研究機関が隣接するつくばの特性を活かし、ゴミを減らし地球にやさしく、人にやさしいまちづくりを進めます。●ごみ減量と資源化の促進（資源化率8%→16%） ●ゴミ収集方法の見直し（コンテナ回収の導入など）

### 市民が望むまちづくり

つくば市の街並みは学園都市の公務員宿舍売却、TX開通、圏央道開通により大きく変化し始めています。良好な景観、安心して暮らせる、歩いて移動できる…など市民の声が活かされ、住みやすいまちづくりが必要です。●公共交通の充実 ●公務員宿舍跡地再開発についての意見交換会の開催 ●災害時の避難所の見直し

## この4年間で実現しました

- ・ 学園地区住宅地の高さ制限
- ・ ごみの減量・資源化の推進（事業ごみの分別推進・レジ袋の削減）
- ・ 市内全ての小学校に司書補を配置
- ・ 遺伝子組み換え作物栽培に関する方針づくり、連絡会の設置
- ・ 議員活動で得た情報を発信（議会速報・ネット通信の発行、議決結果の公表、市民との対話集会の実施）



つくば市議会議員  
永井えつ子

つくば市議会議員  
せとゆみこ



### 【6月・9月議会の主な議決結果】

※改選直前の議会で請願が「継続審議」になると事実上廃案となるため、市民ネットは継続に反対しました。

議決案件	結果	つくば・市民ネットワーク	新政の会	つくば市民政策研究会	つくばクラブ	公明党	民主党	日本共産党	新社会党
つくば市議会のインターネット中継を求める決議	○	○	×	○	×	×	○	○	○
後期高齢者医療制度の抜本的見直しを求める請願	×	○	○	×	×	×	○	○	○
「ミニマムアクセス米の輸入停止を求める請願」を継続審議にする	○	×	○	○	○	○	×	×	×
各会派の所属議員（敬称略）		*永井 瀬戸	*木村、星田、大久保、市川、柳田、飯岡、埴口、矢口、塩田	*高野、須藤、柳沢、安井、吉葉、古山	*鈴木、大坪、沖山、石川、(議長:久保谷)	*内田、馬場、坂本、小野	*宮本、田宮、今井、五十嵐	*滝口、橋本	*金子

## 議員と話そう!会

10月13日(月・祝) 14:00~15:00

両事務所で開催します。お気軽におでかけください。

永井えつ子事務所

千現1-19-13コスモスツクバ1F

せとゆみこ事務所

梅園2-24-16 (元モンミルカフェ)